

狙って獲った4つ目の九州 シニア、Mシニア（2）、Gシ ニア、そしてSシニア

《第12回九州スーパーシニアカップ》男子
～小郡カンツリー倶楽部

2オーバー 74

大川 重信（湯布高原、81歳）



グランドスラム達成である。55歳以上の九州シニア（2003年）、65歳以上の

九州ミッドシニア（２０１０、２０１３年）、７０歳以上の九州グランドシニア（２０１５年）、そして今回新たに九州スーパーシニアのタイトルを手にした。大川が「九州シニア４冠」を掘り当てたパイオニアとなった。

「これに勝ちたいと思ってやって来た。試合前に勝ちたい、と思ったのは初めて。練習もしたし。優勝には２つ足りんかな、と思っていたけどね」。大川の頭の中でのＶスコアはパープレー。本人にしてみれば、届かないと諦めていたが、逆に２位に２打差である。３バーディー、５ボギーの７４。カラーからも含めると３パットが３度ある。「ここは何回も回っていて、グリーンがもっと速かった。今回は芝が濃かった。年を取ると、パターが悪くなる」とかつてのイメージとは異なっていたようだ。それでも優勝は逃さない。

ここ数年は脊柱管狭窄症にも悩まされ、描くゴルフができない。そのため湯布院（大分）でリハビリに励み、練習前には準備運動にたっぷり時間をかける。優勝を目指した今回は「自分は器用な方じゃないし、練習量で培って来た。感覚を忘れないように」と腰などに配慮しながら毎日３０～５０発。日々の練習で「集中力が出了」と好結果に繋がった。

「年を取ると色々出てくる。医者からはね。大腸がんの気配がある、と言われている。でも、手術はしない。ゴルフができれば、それでいい」。体重は元気な頃と比べると７ｋｇ減って６５ｋｇ。ドライバーの平均飛距離は２００ヤード。体力は落ちても、日本シニア（２００６年）、日本ミッドシニア（２０１４年）と日本タイトル２冠と九州タイトル５冠の計７冠を頂く男は、今後もゴルフとともに歩んでいく。



【写真は初優勝の大川Ⓜと上位者】

2年連続4度目の頂点

バーディー1、パー13、ボギー0、ダボ3、トリ1

《第12回九州スーパーシニアカップ》女子
～小郡カンツリー倶楽部

8オーバー 80

福井 和子（ブリヂストン、79歳）



また、勝った。2年連続4度目の頂点。それも昨年に続いて同スコアとなり、年長者上位の大会規定により、3度目の優勝を目指した75歳の岩切マリ子（宮崎ゴルフ）を

振り切った。出場27人中、79歳の福井より年上は86歳の土器梯子（佐賀）を含め3人しかいないだけに、同スコアになったら、強い。

「80の優勝はいただけないわ。79だったらエージシュートだったのに。エージシュート？何度もしてる。どうせなら、エージシュートで勝ちたかった。毎年出ているけど、（スコアは）年齢に足しているわね」と淡々と語る。福井は女子のこの大会が始まった2020年の初代女王。73歳の時に1オーバー73で優勝した。2回目は翌2021年に5オーバー77、昨年が79、そして今年が80。年齢とスコアが同じような歩みを示す。素晴らしいのは7回の大会のうち半数以上の4度も勝っているという事実である。

プレーを振り返る。「プロは『おはよう、バーディーとか言うけれど』私はゾッとした」と独特の表現をした1番ロングでいきなりバーディースタート。幸先は良かったものの、3、5番でダブルボギー。インに入った後半も11番でダボ、13番ではトリプルボギーである。この5ホール以外13ホールでパー。ボギーは1個もない。ちょっと珍しいゴルフを展開した。「年を取ると、勘が鈍くなる。ゴルフに対してずれているというか。若い人は飛ばすけど、私はそこそこ。ドライバーで180ヤードくらいでしょうか。ごまかしごまかしのゴルフです」と謙遜するが、ミスはあっても諦めないということの結果で示している。

来年は80歳を迎える。「五十肩に腰も痛い。（大会出場は）今年が最後かな、と思ったりもする」。一つの区切りの年ではあるが、『まだまだやれる』プレーを披露している。



【写真は優勝の福井㊦と㊥は2位の岩切、㊧は3位の東大森】